

2017年1月1日付組織人員
8,601人
 実増数 +28人(前年1月1日比)
<http://www.doken-adachi.net>



東京土建一般労働組合
 足立支部機関紙
 代表者・武藤 彰
 発行人・森 和夫
 東京都足立区梅島1-2-26
 TEL 03 (5845) 5011 (代)
 FAX 03 (5845) 5014

謹賀新年



今後よろしくお祈りしますと、嶋田三枝さん、誠さん(前列左から3、4人目)

日頃の地域運動が

新たな縁づくり

土建さんのポスターや看板が、もっとたくさんあると頼る方が増えると思いますよ。

会員だけで新築一棟建ててみたい

岡本昌幸・足立東分會 建築センター長
 分會五役の若返りが進む中で、建築センターにも、とても活気が出てきました。

林さんが中心となつて、基礎工事、内装工事、畳工事、屋根工事などはセンターの会員が受けてもらっています。

父との縁があったので、喜んでいきます。

2020年東京オリピックを控え、技能者不足とも相まって不透明感が益々深まっています。厳しいときこそ組合の役割も増えます。今年も東京土建本部結成70周年の記念の一年です。足立支部もそれにふさわしい到達に向けて進んでまいります。組合員の声を大切に、支部役員先頭に立って奮闘する決意です。よろしくお祈り申し上げます。

新年のあいさつ

不透明感深い今こそ 皆の力で前進を



足立支部 執行委員長 武藤 彰

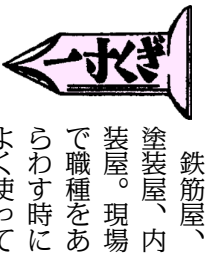
謹んで、新春のお喜びを申し上げます

足立支部は年初を4年連続組織増勢で迎えることができました。

一年間加入促進や脱退防止活動など献身的な奮闘を頂いた分會・群役員の皆様方に心より感謝申し上げます。

取り分け自治体要望では、足立区工事契約約款改訂に伴う下請区内業者の積極活用、公共建築物等の木質化推進条例制定、足立区小規模工事契約登録制度の見直しでは小零細業者対策を講じるなど、地域循環型の建設業界

区内全小中学校のトイレ洋式化とドライ化推進の今日的意義を学ぶ「あだちトイレサミット」開催や区民まつり、総合防災訓練への参加など、本場に多忙な一年でした。私も昨年4月から、委員長という大任を仰



鉄筋屋、塗装屋、内装屋。現場で職種をあらわす時によく使われる『〇〇屋』。どういう意味があるのか、ふと思いついてみた▼

【そのことを専門にしている人、技術に優れている人などをさしている。場合によって自嘲や軽蔑の意を込めても用いられる。】ネガティブな意味あいもあるようだ▼建設業の職種のなかで『〇〇屋』って呼ばないのは大工と驚くらいだ。そこで今度は大工を調べてみると【木造建造物の建築・修理を行う職人のこと。古くは建築技術者の階層を示し、木工に限らず各職人を統率する長となる人物】とある。もともと大工は『専門屋』を集めて現場をまとめる人だという▼さらに【かつては一般の木造建築の職人を右官と呼んでいたが、江戸時代頃から一般の職人も大工と呼び、統率者を、棟梁と呼ぶようになった】とある。【木】に関わる職種を「右官」と呼び「土」に関わる職種を「左官」と呼んでいたという説もあるようだ▼右官は大工になり、左官はそのまま残ったのだろうか。組合の大工さん、左官屋さん、ご存知でしたら教えて欲しいものだ。